

SBVS-2 ビーバースカウト隊のプログラム

11時00分～12時00分(60分)

担当 木名瀬 智子

準備・依頼事項・参考

目標

1. ビーバースカウト部門の進歩制度とプログラムの関係を理解する。
2. ビーバースカウト部門のプログラムプロセスについて理解する。
3. 柔軟性のあるプログラムが必要なことも必要なことを理解する。

・日本連盟規定集
・ビーバースカウト隊長
ハンドブック(2017改訂版)

指導上のねらい

1. ビーバースカウト部門の活動の目標、グループと進歩制度のねらいと仕組みについて正しく理解し、プログラムに反映させて運用することが、スカウトをカブスカウト隊への上進に導くことに繋がることを理解させる。
2. プログラムプロセスが様々なニーズに基づいたものであることを理解させる。
3. ビーバースカウト隊の諸会議のそれぞれの役割について知らせる。
4. ビーバースカウト年代の興味の持続時間は短く、柔軟性のあるプログラム展開が重要であることに気づかせる。

セッション運営要項作成にあたって

(1) ビーバースカウト活動の概要

① ビーバースカウト活動のねらいについて

・ビーバースカウト年代の子ども達の特性を踏まえ、その成長やこの年代に応じたねらいを定めている。
・カブスカウト隊への上進を目指すものである。

② ビーバースカウト活動の目標について

・活動(遊び)を通じて自然に体得出来るようにすることが必要である。

(2) プログラムとは何かについて概要する。

(3) ビーバースカウト活動のプログラムの特徴

① 活動は、1回完結型であり、活動のネーミングとして「タイトル」を用いることを説明する。(カブ部門のプログラムの「テーマ」と混同しない。)

② ビーバースカウトが抱く憧れや興味(スカウトの思い)に、保護者・指導者・社会のニーズ(ビーバースカウトにどのようなことをさせたいか、どのような青少年になってほしいか)を取り込みプログラムを企画し実施展開することが、子どもを成長させることに繋がることを説明する。

(4) ビーバースカウト隊における班制教育

① 小グループ活動の素地作り(カブ隊の「組」、ボーイ隊の「班」へつなげるため)として、固定したグループでの活動である。

② アドホックなグループの活動である。

(5) ビーバースカウト部門の進歩制度とプログラムの関連

① 進歩課程: 「ビーバー」と「ビックビーバー」学年にしたがって一斉に「進級」する。

② 進歩課目: 「木の葉章」と「小枝章」

(6) プログラム立案の流れと諸会議の役割について以下の項目について説明する。

① 年間計画会議

② プログラム会議

③ 実施計画書の作成

④ 隊集会の実施と評価反省

(7) ビーバースカウト年代は興味の持続時間が短く、多くの予備プログラムを準備しておくなど、柔軟性のあるプログラムが必要であることを説明する。
また、天候や環境に応じたプログラムの準備も必要である。

2. 訓練目標を達成するための留意点

(1) ビーバースカウトの訓育として「カブスカウト隊への上進を目指すものとする。」としているように、一貫教育を意識してビーバースカウト活動を展開することが重要であることを強調する。

(2) プログラム活動の目標を達成するためのものであると同時に、スカウトの憧れや興味、保護者・地域社会・スカウト運動のニーズに基づいたものであり、プログラム立案に当たってはまずこれらを考慮する必要があることを理解させる。

3. その他確認事項

SBVS-2 ビーバースカウト隊のプログラム

目標

1. ビーバースカウト部門の進歩制度とプログラムの関係を理解する。
2. ビーバースカウト部門のプログラムプロセスについて理解する。
3. 柔軟性のあるプログラムが必要なことも必要なことを理解する。

導入 (5分)

11:00 1. ビーバー隊のプログラム

導入 5分 **ビーバーのプログラム誰が作ってますか？
作成にあたりどんなことを考えてますか？**

展開

- ①プログラムとは、
年間計画
隊集会プログラム 月2～3回
1回完結型の2時間程度の集会
・子どもたちは、ドキドキ、ワクワクが存在。興味関心。
・隊長は、どう育てほしい。そのために必要なものは。
・ビーバー活動の目標
一人一人が成長発達し、カブスカウトへの期待感を持たせる
プログラムになってほしい。

- ②隊集会の「タイトル」活動をイメージするため。
③プログラムとアクティビティー
アクティビティーは、隊集会の中で歌う歌、ゲーム、工作など
一つ一つの具体的な活動としてとらえて。
④よいプログラムの要素
一人ひとりの興味・関心を刺激し、成長発達のための課題
活動の目標を達成できるもの。

2. プログラムプロセス
計画⇒実施、展開、⇒評価
年代にあったか。効果は？など

3. ビーバー隊の諸会議
プログラム立案の手順
①年間計画会議
②プログラム会議
③隊指導者集会
4. ビーバー隊のプログラムと進歩制度
5. プログラムプロセスにおける留意点
①一人で作成しない。
②スカウトのニーズや地域保護者のニーズ。

11時00分～12時00分(60分)

担当 木名瀬 智子

準備品
ハンドブック

白紙コピー用紙配布

氏名
ビーバーのプログラム誰が作っ
てますか？作成にあたりどんな
ことを考えてますか？

セッションの感想

HBP50

HBP14

- ・神と身の回りに
- ・自然に
- ・表現力
- ・所属する
- ・考える
- ・健康
- ・活発
- ・体験
- ・愛と
- ・国際組織

HBP52

スカウトスキル

HBP65

HBP45

HBP53の図

HBP40

話会うなかで, 連携。

6. ビーバーの進歩

スカウト活動の4本柱・・・人格・健康・知識・技能・奉仕

その年代や能力, 興味に合わせて, やり遂げるのに適した。

活動の目標を達成していくための手法。

木の葉章・小枝章

木の葉章課目の内容のとらえた方・同じ活動を実施しても, 指導者のねらうところが異なれば木の葉章の課目は違ってくる。

- ・指導者が予め設定した細目を隊集会や日常生活を通じて履修。
- ・小枝章は帽子, 年功章・・制帽左正帽

HBP47

まとめ

- ・一貫教育・・カブ隊への上進。
- ・プログラム立案は, 一人ではなく, 保護者・スカウトの意見。
- 1 回完結型の2時間程度の集会
- ・子どもたちは, ドキドキ, ワクワクが存在。興味関心。
- ・隊長は, どう育てほしい。そのために必要なものは。
- ・ビーバー活動の目標
- ・指導者が予め設定した細目を隊集会や日常生活を通じて履修。

HBP24